

令和 8 年度 福井県 英語教育改善プラン

目標

- ・自分の考えや気持ちを英語で積極的に伝え合う児童の資質・能力の育成
- ・小中連携を意識した言語活動を通して指導する授業づくりの推進

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☒ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①小中連携について情報交換や授業参観を行う学校が増加

②英語の授業で自分のことや身の回りのことを英語で伝え合う言語活動に取り組んでいると感じる児童が多い。

R7県独自調査 5 年生80.1%、6 年生79.3%

未だ改善が必要な点

①「英語の勉強は好きですか」に肯定的ではない回答をした児童が学年が上がるにつれ増加傾向にある。

R7県独自調査 5 年生21.8%、6 年生27.2%

2. 要因分析

①②小学校外国語担当教員研修や授業づくり支援において、小中連携の意義を学んだり、小中学校の接続を意識した「言語活動を通して指導する」授業づくりについて、同校区の小中学校教員が集まり、授業案を検討したりしたことが、要因として考えられる。

①「英語の授業がよく分かる」に肯定的でない回答をしている児童が見られる。
(R6全国学力・学習状況調査 18.2%)

児童が言語活動に取り組む必然性を十分に意識できていないことが要因として考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②①小学校外国語担当教員対象研修の実施

小学校外国語担当教員対象研修を行う。小中連携を意識した言語活動を通して指導する授業づくりや、カリキュラムの設定、言語活動を行う目的や場面、状況等を明確に設定し、児童が言語活動に取り組む必然性を十分に意識できる言語活動の設定について研修し、実践事例を紹介するなどして、指導例の周知に努める。

③新規採用試験における外部検定試験の加点

採用試験説明会等での周知を通して、外国語を指導できる小学校教員の確保に努める。

①授業づくり支援による授業改善の推進

児童が自分の考えや気持ちを「聞くこと」「話すこと」を中心とした言語活動を通じて、コミュニケーションを図る素地や基礎となる資質・能力を育成し、発達段階に応じて「読むこと」「書くこと」を加えていく系統的で「深い学び」を実現するための授業づくりを、県の指導主事が学校訪問を通して伴走しながら支援し、県教育委員会HPで好事例を共有する。

②①県主催で英語セミナーを実施

小中学生対象の英語セミナーを県が主催し、児童と外国語指導助手（ALT）が様々な活動を通してコミュニケーションを図る活動を行い、英語でのコミュニケーションや国際理解への興味・関心を高める。

令和 8 年度 福井県 英語教育改善プラン

目標

- ・自分の意見や考えを英語で積極的に伝え合う生徒の資質・能力の育成
- ・小中連携を意識した言語活動を通して指導する授業づくりの推進

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R7 : 84.6% ⇒ R8 : 87%)

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☒ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合が増加
(R6 : 79.8%⇒R7 : 84.6%)

②小中連携について情報交換や授業参観を行う学校が増加

未だ改善が必要な点

① 4 技能を測定する検定では、「読むこと」「聞くこと」の受信技能が他と比較して改善する余地が見られる。

②自分の意見や考えをより積極的に自信をもって伝え合う生徒を、さらに育成する必要がある。

2. 要因分析

①教員を対象とした悉皆研修や動画研修等において、具体的な授業づくりのポイントを提示したことで、教師の授業力の向上が図られたと考えられる。

②小中学校の外国語担当教員を対象とする授業づくり研修を合同で行ったことで、教員の小中学校の接続についての理解を深めることができた。

①発信技能に重点が置かれており、4技能5領域を統合した言語活動の実施が十分ではない。

②言語活動において、小学校での学びを生かし、中学校での学びにつなげる必要があると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①①外部検定試験の全額補助（中学3年）

結果分析を活かした事後研修と授業づくり研修実施

外部検定試験（GTEC）の全額補助を実施し、その結果分析資料等をもとに、生徒の学習改善と教師の指導改善のため、指導の好事例や改善点について、共有または検証・研究する機会を設け、教員が主体的に具体的な方策を考え、学ぶ機会とする。

①①授業づくり支援による授業改善の推進

主体的・対話的で「深い学び」を実現し、生徒のコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指した授業実践を推進するため、県指導主事が、授業づくりのサポートを行い、校内研修や地区内研修等で実践例の共有を図る。

②小中連携への取組

令和7年度実施の小中学校の外国語担当教員を対象とする授業づくり研修を合同で行い、小学校3年生から中学校3年生までの7年間を見通した英語力育成について中学校区ごとに共通理解を図った。令和8年度も継続して実施する。

①①②外国語指導助手（ALT）の活用推進

- ・言語活動の充実に向けた授業におけるALTの参画について研修を行い、県内の中学校での授業改善に努める。
- ・小中連携を意識し、小中学生対象の英語セミナーを県が合同で行い、生徒とALTとのコミュニケーション活動を推進する。

令和 8 年度 福井県 英語教育改善プラン

単元目標達成のための言語活動を効果的に取り入れた授業づくりの推進及び「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R7 : A2以上 60.7%、B1以上 31.7% ⇒ R8 : A2以上 62.0%、B1以上 32.0%)

目標

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①…英語担当教員の英語使用状況が50%以上の割合
(R6:43.9%→ R7 : 50.3%)
- ②…生徒の英語力 CEFR B1以上の割合
(参考 : R7 :31.7%)
- ③…ICTの活用状況 オンライン英会話の割合
(参考 : R7:50%)

未だ改善が必要な点

- ①…指導と評価の一体化の取組について、学校間において差が見られる。

2. 要因分析

- ①②…指導主事訪問や研修会等を通して、授業が「実際のコミュニケーションの場」となるような授業づくりについて指導・助言を行った。また、単元計画設定の重要性についても指導・助言し、各学校において、単元目標の達成に向けた言語活動を取り入れた授業改善に取り組んだ。
- ③…「オンライン英会話」事業終了後も、各学校においてオンライン等を活用し、他国の人と英語で話す機会を設定するなど、実践を通じた英語力の向上に努めている。
- ①…パフォーマンス評価の実施については少しずつ改善が図られているが、指導計画の作成や実践事例の共有が不十分である。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②ディベート活動の推進
県内で5回程度研修会を開催し、各学校で「論理・表現」の科目等でディベート活動を実践できるよう支援。
- ①②①「先進的な学び研究推進事業」(R7～)
研究推進校にて生成AIやAIアプリ等活用した授業実践を通して、生徒の発信力の育成を図る。また、研究推進校において授業研究会を開催し、県内高校への普及を図る。
- ①外国語指導助手(ALT)の活用推進
県内ALTを対象に「指導力等向上研修」を実施し、パフォーマンス評価や授業における効果的な言語活動等の授業実践について学ぶ機会を設定する。
- ☐ グローバルに活躍することが期待される層の拡充に向けて
グローバル人材育成事業
福井県立高等学校横断型の高校生サークル「ふくいグローバルサークル(FGC)」を開設(R7～)・拡充
 - ・グローバルシチズンシップ研修(シンガポール) ※R8新規
 - ・英語サマーキャンプ開催 ・グローバル企業交流会
 - ・福井大学グローバル人材育成センターや国際交流協会主催イベントへの参加

福井県教育委員会

		2023		2024		2025		2026		2027	
校種	指標内容	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）	55.0%	61.1%	62.0%	61.2%	63.0%	60.7%	62.0%		63.0%	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）	28.0%	29.1%	29.5%	31.6%	30.0%	31.7%	32.0%		32.0%	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）	65.0%	40.8%	65.0%	79.0%	65.0%		68.0%		70.0%	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）	60.0%	74.1%	75.0%	71.3%	75.0%		75.0%		75.0%	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100.0%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
		公表（％）	90.0%	97.4%	98.0%	98.0%		100.0%		100.0%	
		達成状況の把握（％）	100.0%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）	92.0%	98.1%	95.0%	98.0%	95.0%	97.3%	95.0%		95.0%	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）	60.0%	43.1%	60.0%	43.9%	60.0%	50.3%	60.0%		60.0%	

		2023		2024		2025		2026		2027	
校種	指標内容	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）	87.0%	83.8%	87.0%	79.80%	87.0%	84.60%	87.0%		87.0%	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）	90.0%	82.1%	90.0%		90.0%		90.0%		90.0%	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）	100%	100%	100%		100%		100%		100%	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100%	100%		100%		100%		100%	
		公表（％）	70.0%	75.3%	100%	100%		100%		100%	
		達成状況の把握（％）	85.0%	73.9%	100%	100%		100%		100%	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）	66.0%	65.0%	66.0%	63.3%	66.0%	75.1%	66.0%		66.0%	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）	86.0%	73.9%	86.0%		86.0%		86.0%		86.0%	

		2023		2024		2025		2026		2027	
校種	指標内容	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	80.0%	100%	100%	100%		100%		100%	
		公表（％）	50.0%	47.8%	100%	100%		100%		100%	
		達成状況の把握（％）	80.0%	70.1%	100%	100%		100%		100%	